

令和4年度 第1回栃木市総合教育会議 会議録

1. 日 時 令和4年7月1日(金) 午前10時00分～午前10時56分

2. 場 所 栃木市役所 議員全員協議会室

3. 出席者

(構成員) 大川秀子 市長、青木千津子 教育長、後藤正人 教育長職務代理者、
福島鉄典 委員、西脇はるみ 委員、大橋孝子 委員、館野知美 委員、
林慶仁 委員

(事務局) 発生川 総合政策部長、押山 総合政策課長、
名淵 教育次長、金井 参事兼教育総務課長、
大豆生田 国体推進課長、他担当職員

4. 内 容

1 開 会

2 あいさつ

○大川市長

お忙しい中、第1回総合教育会議にご参集を賜りまして誠にありがとうございます。

皆様にお会いすると暑いですねと開口一番に出てしまいますが、学校現場ではコロナ対策と熱中症対策もしなければならないため、大変と聞いています。救急搬送も増えているため、皆様にも熱中症にお気を付けてください。

本市では、以前より進めてきたリノベーション事業がほぼすべて終了する運びとなりました。駅前北側の蔵なび、県庁堀南のくらのまち保育園、蔵の街楽習館、そして文学館が今年4月27日に無事オープンし、残すところ11月3日オープン予定の美術館を残すところとなりました。

多くの皆様に活用していただき、また子供たちの教育にも役立ててほしいと期待しています。

本日も意見交換をよろしくお願ひいたします。

3 協議・調整事項

(1) 第3期教育大綱の検討状況について

・策定懇談会等における検討状況について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

事務局より説明がありました。皆さんからご質問、ご意見をいただきたいと思います。

○福島 委員

「夢と希望をもって」等が最初に来てもよいのではないか。様々な家庭の事

情があって、人を愛するには自分を愛することが大切。そのためにはまず明日への希望が必要なのではないか。

○事務局

現時点では候補案として示している。先月の6月2日の教育計画策定懇談会にて決定したものである。最終的には計画の策定後に教育委員会に諮って決定となるが、本会議にていただいたご意見は今後の懇談会等でお話させていただければと思う。

○市長

福島委員の意見はまったくもってその通りで、希望があるから生きていける。希望が生き抜く力になると私も思うので、もう一度再考してもらいたい。

○林 委員

郷土愛の表記で「とちぎ愛」とあるが栃木県や栃木市、旧栃木市等混同してしまうのではないか。意識と言葉の面で気にかかる。「誰一人も取り残さない栃木市」としてもらいたい。

○事務局

県名と市名が一緒であることについては、事務局側でも検討したところである。今回の計画は市の教育委員会にて策定するものであるため、栃木市全体と考えていただきたい。当初は栃木人（とちぎびと）という文言の使用を検討していたが、先に県に使用されてしまった経緯もある。今後もこの件については混同等が起きないよう努力していく。

○市長

県と市の名称が「栃木」と一緒に誇りもある。

○後藤 委員

市民憲章がこの構造図の中に含まれているため、基本理念は良いと思う。

子どもたちが情報端末を使用するうえで良い効果が出てきているが、モラルの形成に対し、かなりの子どもたちが精神的な被害を受けていることは社会問題になってきている。現在は情報爆発時代であるため、情報の見極めが非常に重要である。そういう内容に対する記載がないことが気がかりである。

多様性を尊重するという記載は様々なところにみられるが、個性の尊重が構造図の中にはない。その理由はどうか。

○事務局

生命尊重人権尊重の中に含まれている。包摂性の中にも含んでいるため、改めての個性の尊重といった文言は記載していないが検討していく。

(2) 2022 いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会について

①栃木市大会の概要について

②市内小中学校及び高等学校の参加協力等について

○事務局

※資料により説明

○大川市長

国体開催も間近となってきており、皆様にご協力をいただいて準備を進めてお

り、皆様と一緒に盛り上げていければよいと思っております。それでは皆様からご質問、ご意見をいただきたいと思います。

○福島 委員

市内での競技は一般の方も見ることができるのか。

○事務局

県によりコロナ対策のガイドラインが作成されており8月には正式決定する。

現在では屋内の競技は半分の制限。学校観戦を優先し、一般の観覧がフリーに見ることができる競技は2つある。

一つは市の総合体育館、マルワアリーナとちぎでのハンドボール競技。体育館内の席数の制限があるが、入れない方のための中央の噴水のところにモニターを設置予定である。

もう一つは渡良瀬遊水地でのボートとカヌースプリント。湖岸で自由に観戦可能である。

また競技を観戦に来られない方のためにインターネット配信を検討しており、広報とちぎの9月号に掲載予定である。

○教育長

学校観戦は希望した学校が32校ということですか。

○事務局

そうである。希望した学校はすべて観戦可能となった。

○大橋 委員

観戦は全校児童生徒か。

○事務局

市がバスを用意し、会場へ送迎する関係で、上級生の1学年を優先としている。中学校は受験もあるため2年生になる可能性もある。

4 その他

○福島 委員

・グローバル教育の中でALTのことについて

常にALTが学校にいることはかなり良い影響があると各学校の校長先生から聞いている。そのため、ALTの教員数を増やしてほしい。

○教育長

本市は42の学校に対し20名のALTで対応している。

近隣の小山市は学校数35に対しALTは36名いる。

○市長

予算の関係で厳しい部分や、タブレット等で英会話などに触れる機会を増やせるのではないかという考え方もある。また一つの案として市内の英語のできる方を引き込んで生活の中で英会話ができる環境づくりもいいなと思っている。

※事務局から次回の日程等について説明を行った。

5 閉会（10：56）